

第25期 株主通信

2008年4月1日 ▶ 2009年3月31日

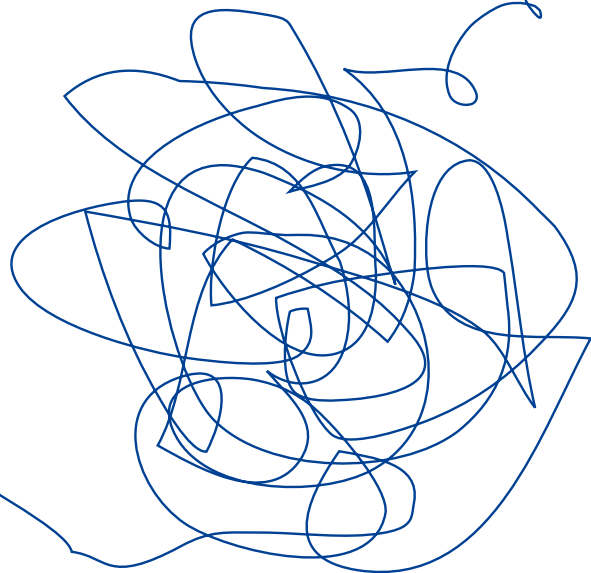
証券コード 3844



ささやきをカタチに。

プロダクト&ソリューション

Capture
LEAD THE FUTURE





お客様、社会から必要とされる 企業であり続けるために

社会と共に繁栄すること

ユーザーから真に信頼されるサービスを提供すること

使命感と活気ある人材に満ちあふれること

常に新しい技術を取り入れ蓄積し、社会のニーズに対応すること

健全成長を基調とする超一流を目指す気品ある社風を築くこと



代表取締役社長 向 浩一

Q1

2008年度の業績はいかがでしたか。また、2009年度の見通しについてお聞かせください。

2008年度の業績は景気低迷の影響を受け、売上高6,023百万円、営業利益513百万円、経常利益525百万円、当期純利益286百万円となりました。当上半期は、生産性の向上、プロジェクト管理の強化および高収益案件の獲得等に努めたことにより前中間期を大きく上回り、売上高・利益ともに過去最高額を達成いたしました。しかし、その後の急激な景気低迷の影響を受け、当下半期の業績は予想に比べて大きく落ち込み、株主・投資家の皆様には大変ご心配をおかけする結果となりました。

当社は1985年の創業以来、2度のバブル崩壊を経て現在に至っております。その都度、様々な課題を解消し、それぞれのバブル崩壊後はそれ以前にも増して業績を伸ばしてまいりました。現在の状況は「100年に1度の経済不況」と言われ過去2回のバブル崩壊以上の経済危機とも言われていますが、「ピンチをチャンスに変える」ヒントは散在していると考えています。「果報は寝て待て」と言いますが、私は「果報は練って待て」と思っています。大変厳しい時期ですが、2009年度は①新しいソリューションの拡充、②プロダクト&ソリューション（連鎖型収益モデル）の強化拡大、③高品質経営でお客様満足度向上に軸足を置きながら、経営に邁進してまいります。

Q2

12月には「CNAP」を活用した業務プロセス連携ワークフローを、3月には「CNAP」とBlackBerry®スマートフォンとの連携ソリューションの発売を発表されました。それぞれの強みと今後の取り組みについてお聞かせください。

いずれも日本アイ・ビー・エム株式会社のコラボレーションソフトウェア「Lotus Notes/Domino」をプラットフォームとする当社の*1ワークフロー製品*2「CNAP Workflow Pro for Domino」を活用した*3ソリューションです。

*4内部統制の強化や業務効率向上のためにワークフローソフトは企業にとって今や必要不可欠なITツールです。当社の「CNAP」もワークフロー製品ですが、*5基幹業務システムとのシームレスな連携機能やプロセスからプロセスヘデータを引き継ぐといったデータ連携機能の強化

によって、より^{*6}J-SOXに対応した製品となり、お客様からご好評をいただいております。

また、3月に発表した「CNAP」と^{*7}BlackBerry®^{*8}スマートフォン(以下「ブラックベリー」)との連携ソリューションについては、社内でご活用いただいている「CNAP」をそのままブラックベリーでお使いいただける画期的な連携ソリューションです。

従来、ブラックベリー専用のアプリケーションを開発しなくてはなりませんでしたが。当社の連携ソリューションは既に社内でご活用いただいている「CNAP」をそのままブラックベリーでもお使いいただけるような仕組みをご提供していますので、納期や費用といったお客様のご負担を大きく低減させるばかりか、外出先でもセキュアな環境でリアルタイムに申請や承認を行うことが可能です。コムチュアでは、今までに培った技術とノウハウでこのようなお客様のご要望の一步先を行うソリューションの開発に取り組んでいます。この不況期はまさにお客様のご要望の一步先を行うソリューションを提案する絶好の機会です。コムチュアの技術を使って、お客様企業の業務効率の向上だけでなく、経営課題の解決にも積極的に関与していきたいと思っております。

りました。振り返ると25年はあっという間に過ぎてしまったようにも思います。コムチュアがここまでこられましたのも、ひとえに支えてくださったお客様、また一緒に汗を流して戦ってきた社員たち、そしてコムチュアの未来にご期待くださっている株主様のおかげと心より御礼申し上げる次第です。コムチュアはこれからも確かな技術力、優れたコンサルテーション力でお客様に満足いただけるサービスを提供すると共に、社員の労働環境の更なる向上と研修制度の拡充に努め、日本の情報通信産業を担う企業として大きく飛躍する決意でございます。

株主様への還元につきましても、「積極的な配当」を目指し第25期は400円増配しました。

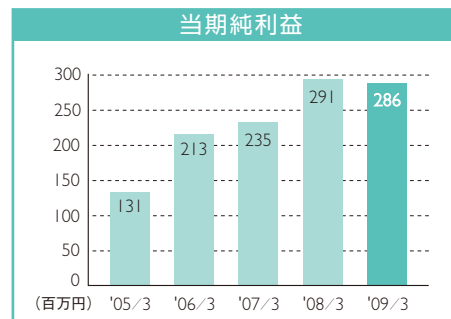
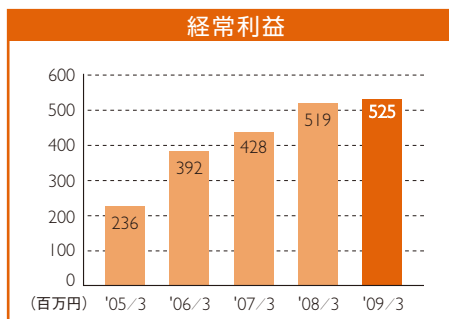
「25年」に驕ることなく初心にかえり、更なる事業の拡大、企業価値の向上に努めてまいります。株主、投資家の皆様には、引き続き長期的な視野でのご支援をお願い申し上げます。

Q3 最後に今後の株主還元方針と、25周年にあたり今後の目標や抱負をお願いいたします。

1985年に創業し、「お客様満足、社員満足」を目指し全力で経営に取り組んでまいりました。2007年に上場してからはそれに「株主満足」が加わり、全社一丸となってコムチュアの企業価値の向上に努めてまい

■ 注記

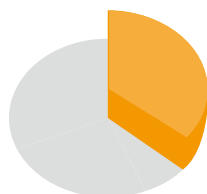
- ※1 ワークフロー：業務の流れ、手続きあるいは処理手順
- ※2 CNAP Workflow Pro for Domino：ワークフローをシステム化するコムチュア製のソフトウェア
- ※3 ソリューション：問題、課題を解決するためのコンピュータシステムおよびサービスの総称
- ※4 内部統制：企業が適切に業務を遂行し、かつ適正に運営しているかをチェック・監視する仕組み
- ※5 基幹業務システム：販売や仕入れ、在庫管理、経理など、企業の基幹業務を支援するシステム
- ※6 J-SOX：金融商品取引法に基づき各企業が事業年度毎に監査証明を受けた内部統制報告書を提出する制度を内部統制報告制度と呼び、J-SOXは内部統制報告制度を示す通称
- ※7 BlackBerry：カナダのリサーチ・イン・モーション社が開発・販売しているスマートフォン
- ※8 スマートフォン：ケータイの機動力と、パソコンの多機能性を持った多機能携帯電話





事業一覧

グループウェアソリューション事業



36.2%
売上高
2,178百万円

事業概要

グループウェア製品を利用したアプリケーション開発から保守、運用サービス、さらにはポータルへの導入や基幹システムとの連携、モバイル対応など多彩なサービスを提供しています。また、特徴ある自社プロダクトをコアとしたソリューションサービスを提供することにより、情報共有システム環境の効率的かつスピーディな提供を可能にしております。

【自社プロダクト】



ERPソリューション事業



10.9%
売上高
655百万円

事業概要

ERPパッケージを利用したシステム企画、要件定義、カスタマイズ、アドオン開発から保守までのサービスを提供しています。SAP ERPを中心としたソリューション提供から、SAPの*BPOサービス、Notes-SAP連携ソリューションなど、ビジネスプロセスの効率化を多角的にサポートしています。

【自社プロダクト】



* BPO : Business process out sourcing

Webソリューション事業

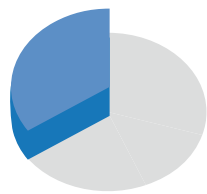


19.5%
売上高
1,177百万円

事業概要

インターネット環境を利用したシステム構築、アプリケーション開発から保守までのサービスを提供しています。インターネット環境を利用したオーダーメイドのシステムや、グループウェア/ERPシステムを連携、または補完するシステムなど、多業種・多業務にわたるシステム開発を行っております。

ネットワーク運用サービス事業



33.4%
売上高
2,011百万円

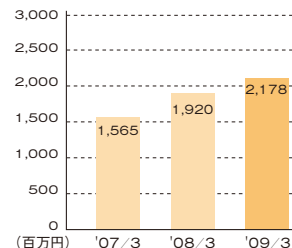
事業概要

ネットワークサービスは、サーバシステムからメインフレームまで幅広いプラットフォームの設計・構築・運用支援（監視業務・ヘルプデスク）等のサービスを提供しています。また、当社センタで行うマネージドリモート操作による統合監視を、24時間365日サービスの提供もしています。

業績概要

マイグレーション関連や企業ポータル導入サービス、およびCRMシステム、ワークフロー構築など、引き続き拡大基調にあります。当期は、プロジェクト管理の強化やクロスセリングによるユーザ層の拡大により売上高は2,178百万円(前期比13.4%増)、売上総利益は576百万円(前期比31.2%増)となりました。

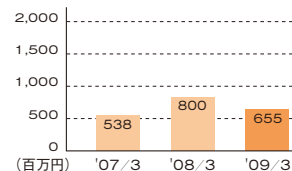
売上高推移



業績概要

顧客企業のIT投資抑制の影響で、当期の売上高は655百万円(前期比18.2%減)、売上総利益は143百万円(前期比14.3%減)となりました。一方、優良顧客、良質案件へのシフトや研修プログラムの拡充による技術力の底上げなどにより、売上総利益率は1.0ポイント上昇いたしました。

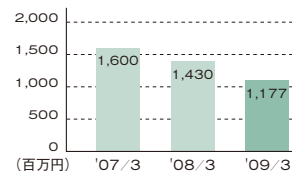
売上高推移



業績概要

マッシュアップ環境(sMash)での*SOA型アプリケーション開発など新しい開発技術への転換を進めました。その一方で、Javaによるソフトウェア開発の価格競争の激化により、当期の売上高は1,177百万円(前期比17.7%減)、売上総利益200百万円(前期比19.8%減)となりました。

売上高推移

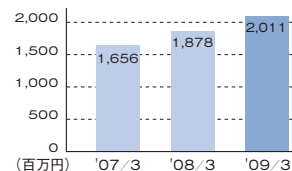


* SOA : Service-oriented architecture

業績概要

インフラ構築や設備提供サービスのマネージドサービスが引き続き拡大しました。当期、プロダクトから開発、開発から運用につなげるプロダクト&ソリューション(連鎖型収益モデル)案件などが好調であり、売上高は2,011百万円(前期比7.1%増)、売上総利益は340百万円(前期比6.4%増)となりました。

売上高推移



BlackBerry®スマートフォンとの連携ソリューションを開発しました。

外出先から社内の情報にリアルタイムにアクセスし、社内文章の承認や営業情報を共有。業務スピードの飛躍的な向上に貢献するBlackBerry®スマートフォンとの連携ソリューションを開発しました。スマートフォン(多機能電話)は、多くのビジネスパーソンが注目するビジネスツール。中でもブラックベリーは、多くのグローバル企業が支持するスマートフォンです。コムチュアでは、このブラックベリーと当社のプロダクトをつなぐソリューションでビジネスのスピード化を支援します。

社外

より手軽に
外出先からリアルタイムに
社内情報にアクセス・承認



- 社内文章の承認処理
- 各種申請書の申請・承認
- 営業情報の報告・閲覧
- お客様のささやき
- 競合情報
- 会議室の予約
- 社内掲示板の閲覧・掲載



社内

ワークフロー(自社製品)

- 稟議書の申請
- 社内文章の承認申請
- 内部統制を強化



顧客情報と営業活動情報の共有(自社製品)

- 顧客情報
- 案件・交渉記録
- 上司のアドバイス



IBM Lotus Notes/Domino

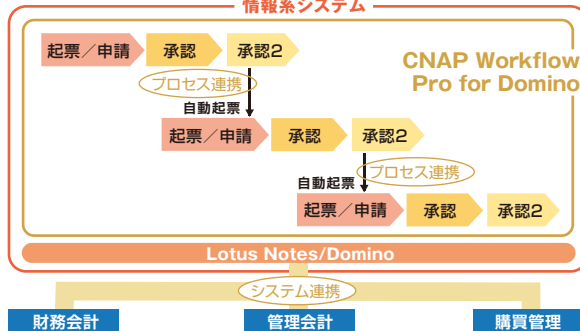
- 社内で行っているNotesアプリケーションや環境をそのまま利用
- 会議室の予約
- 社内掲示板の閲覧・掲載

CNAPの機能を拡張 内部統制を強化しました

コムチュアのワークフロー製品「CNAP Workflow Pro for Domino」に業務の流れ(業務プロセス)をシステム化し、データを共有することで他の業務プロセスとも連携することのできる機能を搭載しました。ERP(基幹業務システム)とシステム連携機能も備えているので、既存のシステムインフラを最大限に活用しながら内部統制の強化や業務効率の向上を図ることができます。

—システム概要図—

情報系システム

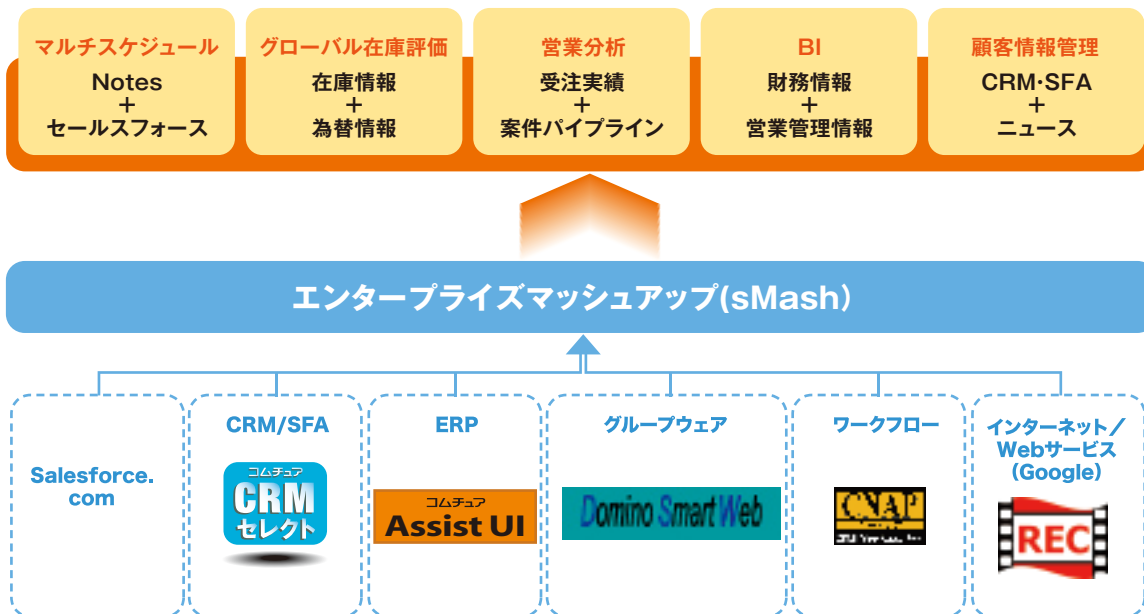


マッシュアップ (sMash) 技術で SOAソリューションを開発

社内外の既存のシステムと連携し、新たなSOAソリューションを素早く構築する開発手法として注目されるマッシュアップ (sMash) 技術。コムチュアは、この新しい開発手法に特化した国内初の専任チームを発足し、本格的にサービスの提供を開始いたしました。
コムチュアのSOAソリューションがビジネス・パフォーマンスの最適化を実現し、企業の競争力を強化します。



※ サンプル画面



IRサイトが優秀企業賞を受賞

当社のIRサイトが大和インベスター・リレーションズ株式会社の「インターネットIRサイトの優秀企業賞2009」に選出されました。

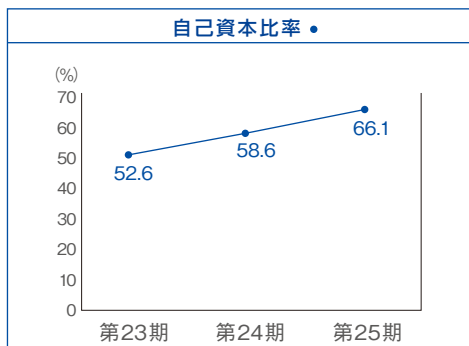
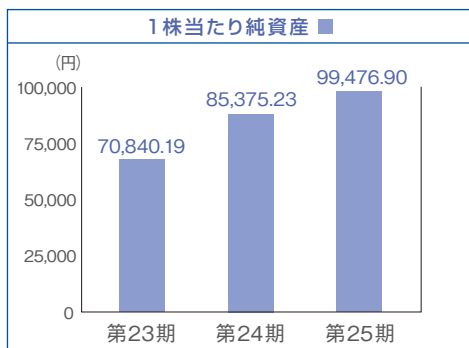
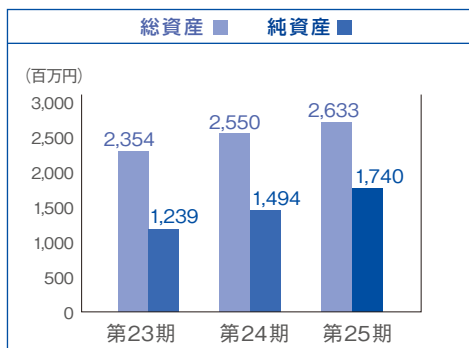
URL:

<http://www.comture.com/ir/>





財務諸表(単体)



■ 貸借対照表(要旨)

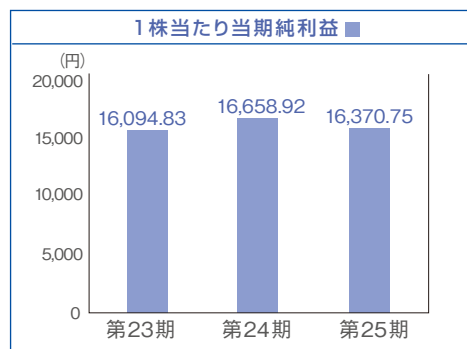
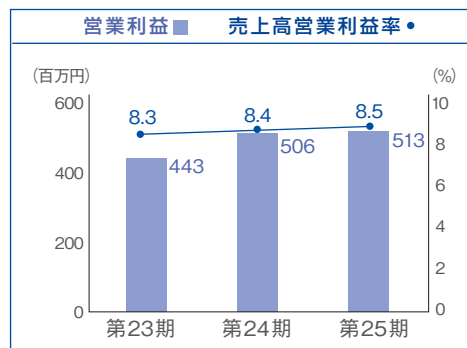
単位:百万円

	当期 (平成21年3月31日)	前期 (平成20年3月31日)
【資産の部】		
流動資産	2,053	1,881
固定資産	580	669
有形固定資産	255	265
無形固定資産	101	170
投資その他の資産	223	232
資産合計	2,633	2,550
【負債の部】		
流動負債	812	949
固定負債	80	107
負債合計	892	1,056
【純資産の部】		
株主資本	1,741	1,493
資本金	308	308
資本剰余金	248	248
利益剰余金	1,184	936
評価・換算差額等	△ 0	0
その他有価証券評価差額金	△ 0	0
純資産合計	1,740	1,494
負債純資産合計	2,633	2,550
1株当たり純資産(円)	99,476.90	85,375.23

■ 損益計算書(要旨)

単位:百万円

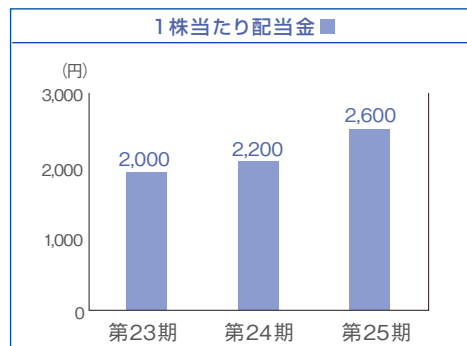
	当 期 (平成20年4月 1日から 平成21年3月31日まで)	前 期 (平成19年4月 1日から 平成20年3月31日まで)
売上高	6,023	6,030
売上原価	4,762	4,853
売上総利益	1,260	1,177
販売費及び一般管理費	747	670
営業利益	513	506
営業外収益	12	14
営業外費用	0	1
経常利益	525	519
特別利益	0	6
特別損失	10	1
税引前当期純利益	515	524
法人税、住民税及び事業税	233	242
法人税等調整額	△ 4	△ 8
当期純利益	286	291
1株当たり当期純利益(円)	16,370.75	16,658.92



■ キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:百万円

	当 期 (平成20年4月 1日から 平成21年3月31日まで)	前 期 (平成19年4月 1日から 平成20年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	309	226
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 22	△ 137
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 68	△ 64
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	219	23
現金及び現金同等物の期首残高	827	803
現金及び現金同等物の期末残高	1,046	827





会社概要 (2009年3月31日現在)

■ 会社概要

- 会社名
コムチュア株式会社
(英文会社名: COMTURE CORPORATION)
- 証券コード
3844 (JASDAQ)
- 本社所在地
東京都品川区大崎一丁目11番2号
- ホームページ
<http://www.comture.com/>
- 設立年月日
1985年1月
- 公開年月日
2007年3月20日
- 資本金の額
3億890万円
- 決算期
3月
- 営業所
三田センタ、大阪
- 従業員数
466名

■ 取締役及び監査役

(2009年6月29日現在)

代表取締役社長	向	浩一
常務取締役	島	勝久
取締役	福田	豊次
取締役	田村	誠二
取締役	酒井	哲夫
監査役	壁谷	勝彦
監査役	藤田	和彦
監査役	的場	淳

■ 沿革

- 1985年 1月 港区に(株)日本コンピューターテクノロジーを設立、ソフトウェア開発を開始
- 1995年 4月 グループウェアソリューション事業を開始
- 1996年 4月 ERPソリューション事業を開始
- 1999年 4月 Webシステムの受託開発を開始
- 2000年 7月 自社センターでマネージドサービスを開始
- 2002年 1月 社名をコムチュア(株)に変更
- 2004年10月 ワークフロー対応自社製品「**CNAP**」の販売を開始
- 2006年 7月 日本アイ・ビー・エム株式会社との提携で自社製品「**Lotus Domino. City**」・「**Domino Smart Web**」を販売
- 8月 SAPジャパン株式会社とパートナー契約を締結
- 2007年 3月 **JASDAQ**証券取引所に上場
- 7月 「コムチュア**CRM/SFA**」の販売を開始
- 9月 「コムチュア**Assist UI**」の販売を開始
- 12月 「コムチュア**CRMセレクト**」の販売を開始
- 2009年 3月 **BlackBerry®**と**Notes**との連携ソリューションの販売を開始

■ 将来予測に関する記述についての注意事項

本株主通信の将来予測に関する記述および客観的事実以外の記述に関しましては当社が現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの記述のみに全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

実際の業績は、当社の事業を取り巻く経済情勢、市場動向、為替レートなどにかかわる様々な要因により、記述されている事業予測とは異なる可能性があることをご承知おきください。



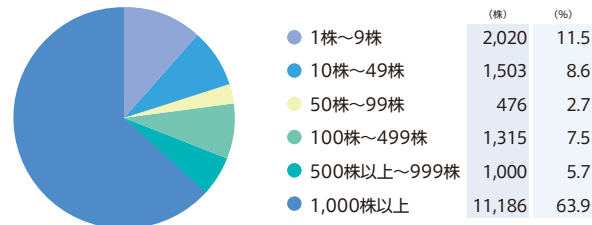
■株式の状況

発行可能株式総数	58,000株
発行済株式総数(普通株式)	17,500株
株主数(普通株式)	1,100人

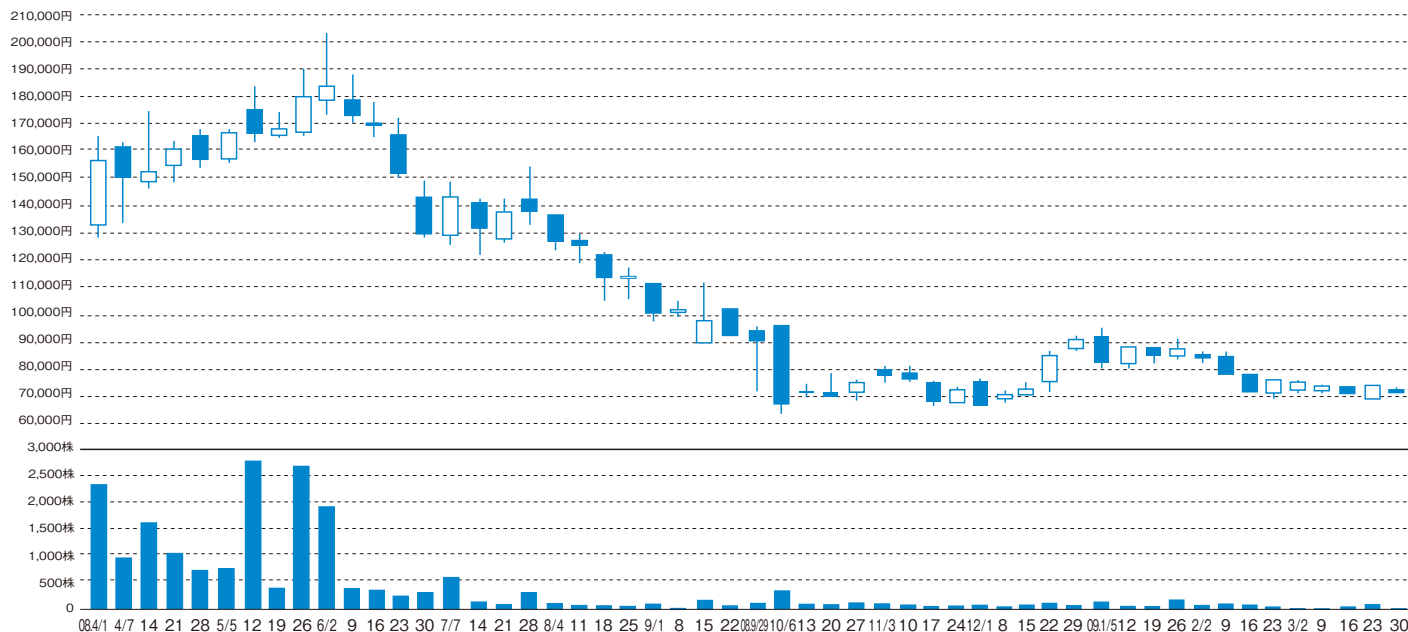
■大株主

株主名	持株数	出資比率
向 浩一	7,860株	44.91%
コムチュア社員持株会	1,256株	7.17%
向 容子	1,070株	6.11%
有限会社コム	1,000株	5.71%
株式会社三菱東京UFJ銀行	500株	2.85%
エヌ・ティ・ティ・データ・ジェトロニクス株式会社	500株	2.85%
TIS株式会社	400株	2.28%
馬上 貴伯	115株	0.65%

■所有株数別分布状況



■株価・出来高の推移(週足)



■ 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
配当金受領株主確定	3月31日および中間配当を行うときは9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL(0120)232-711(通話無料)
公告方法	電子公告により、当社ホームページに公告いたします。 但し、やむを得ない事由により電子公告をすることが できない場合は、日本経済新聞に公告します。

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IR情報のご案内

IR情報につきましては、当社のホームページにも掲載されております。

<http://www.comture.com/ir/>

コムチュア株式会社 COMTURE CORPORATION

東京都品川区大崎1-11-2

ゲートシティ大崎イーストタワー8F 〒141-0032

Phone : 03-5745-9700 Fax : 03-5745-9715



この冊子は環境保全のため、大豆油インキとFSC認証紙を使用しています。